

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を基に事業所独自のケア方針を作成している。また、ケア方針から各ユニットのケア目標を決め、日々の業務を行っている。	法人の基本理念を基に、事業所独自のケア方針として三つの「わ」を掲げている。想いを話す会話の「話」、笑顔でくらす和みの「和」、地域の一人として地域の「輪」を大事に支援することを全職員間で共有し、実践に繋げている。また、各ユニットごとに基本理念・ケア方針を反映したケア目標を決めており、ひだまりユニットでは一人ひとりが「居心地がいい」と思える暮らしの実現を目標とし、日々の業務を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	建物立地から2つの町内会費を納め、地域の一員として町内会に入れていただいている。	事業所の立地から「地域にたたずむ一軒家」として二つの町内会に加入し、利用者や職員は地域行事や祭り、小・中学校の運動会や文化祭等に積極的に参加し、地域との相互交流が行われている。また、地域住民によるボランティア活動が活発に行われており、利用者と地域住民がお互いに支え合って暮らしていく共生の意識を醸成すると共に、「介護困りごと相談所」の毎月開催、認知症サポーター講習や介護技術講習会の開催を通して、地域との信頼関係が構築されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・広報紙を地域に配布している。 ・介護に関する情報提供や相談窓口として「介護困りごと相談所」を毎月開設している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・併設施設の地域密着型介護老人福祉施設、小規模多機能型居宅介護事業所と合同で2ヶ月に1回、知見を有する方や地域の代表者と意見交換を行い、サービス向上に努めている。	運営推進会議は2ヶ月毎に併設施設と合同で開催されている。会議は利用者や家族代表、町内会長、民生委員、老人クラブ、ボランティアの方、事業所の管理者と職員等で構成され、事業所の利用実績や活動報告、事故報告、防災対策等について積極的に意見交換を行っている。会議の内容や意見・要望について職員間で共有し、サービス向上に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域ケア会議に出席し、地域の方や行政の方と情報交換を行っている。	地域ケア会議が年2回開催され、行政の方や地域包括支援センター職員等の参加者で、地域の医療体制の実態や自殺予防対策、通院や買い物の交通手段などについて情報交換が行われている。また、中郷区の総合事務所が事業所建物の向い側にあることから、市町村担当者とは日頃から事務的な手続きや制度の確認等、不明なことは直ぐに出向いて確認や相談ができる協力関係が構築されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設全体で身体拘束についての研修を行っている。また、事業所内で身体拘束の検証を毎月行っている。	身体拘束適正化検討委員会を中心に、年度初めに施設全体で身体拘束をしないケアについての研修を行っている。全職員に資料を配布し、事業所では毎月行うケア検討会や日々のミーティングにおいて検討を行い、身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設全体で虐待についての研修を行っている。また、事業所内で虐待の検証を毎月行っている。	施設全体で高齢者虐待防止についての研修が行われ、事業所の管理者や職員が参加している。毎月行う個別のケア検討会や日々のミーティングにおいて、不適切ケアやスピーチロックについても検討を行っている。また、法人が全職員を対象にストレスチェックを実施すると共に、「虐待の芽チェックリスト」を使用したセルフチェックを行い虐待防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している方はいないが、必要時、活用できるよう施設全体で成年後見制度についての研修を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約時に資料に基づき説明し、不安や疑問点の有無を確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<p>・苦情相談窓口の案内について玄関に掲示している。また、意見箱の設置も行っている。</p> <p>・アンケート調査を実施し、意見や要望の把握を行っている。</p>	<p>苦情相談窓口や意見箱を設置し、寄せられた苦情や意見・要望をサービスに反映させていく体制が整備され、法人のホームページや広報誌「みのりの丘だより」で公表している。また、年に1回利用者や家族等にアンケート調査を実施しており、意見や要望を職員全体で把握すると共に、運営推進会議で報告している。その他、毎月1回担当職員が利用者の様子を家族等に電話連絡を行い、意見や要望の聴取に努めている。寄せられた意見や要望はユニット会議で話し合い、運営に反映させている。</p>	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>毎月の事業所別会議やユニット会議の中で意見を出し合う機会を設けている。</p>	<p>毎月の事業所別会議やユニット会議の中で、職員の意見や提案を出し合う機会を設けている。職員不足の中、事業所ではOBによるパート職員が多く活躍しており、会議に参加しやすい時間を設定し、より多くの意見や提案を聞くための工夫が行われている。また、管理者やユニットリーダーは、日頃から何でも意見や提案、相談しやすい職場環境作りに努めている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>人事考課を導入し、目標設定や上司との面接により、相談・助言を行っている。</p>		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>法人本部で一元化した研修計画と事業所での個別研修計画を作成することで、研修参加の機会を設けている。</p>		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	<p>地域ケア会議や中郷区のNPO法人事業に協力した際に、他事業所と意見交換を行っている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接時に本人の意向を聞き出すように努めている。また、不安のある方には、入所前に施設見学をしてもらうよう配慮を行っている。入所後は、担当が中心となって関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接時に家族の要望や意向を聞き、また、不安のある方には、入所前に施設見学をもらう配慮を行っている。入所後は担当制をとっており、担当が中心となって定期的に家庭連絡を行い、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所申込時や担当ケアマネから情報収集を行い、必要なサービスについて家族と検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入所者の出来ることを活かしながら食事の準備等の家事を行ってもらっている。また、「だんらん食堂」の開店により入所者の生きがい・役割につなげている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、入所者の状況報告を面会時や電話で行い、関係構築に努めている。また、家族には定期受診や理美容院の利用を通して関わってもらっている。	毎月1回担当職員が利用者の様子を家族等に電話連絡を行い、意見や要望を聞き取り関係構築に努めている。病院への受診や季節の衣類の交換、馴染みの理美容院の利用や利用者や家族の要望による個別の外出など、本人との関係が途切れないよう家族に協力を得ている。また、定期的にブログの配信を行い、遠方の家族にも生活の様子を知ることができ好評を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域ボランティアによる「喫茶のあのみ」に出掛け、馴染みの方との交流を図ったり、併設施設を利用されている方との交流が継続できるよう支援している。	地域行事への参加や馴染みの理美容院、お墓参りや自宅への外出など、一人ひとりの生活習慣を尊重し家族と共に支援を行っている。また、事業所内では地域ボランティアによる「喫茶のあのみ」に出掛け、地域の馴染みの方と交流が継続できるよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	人間関係を考慮した席位置としている。また、孤立しがちな方には、他者から関心をもってもらえるように得意とする創作作業の提供等を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人・家族から退所後も遊びに来てもらえるよう継続的に付き合えるよう心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ゆったりと関わることで、希望や意向を聞き取るよう努め、「私の気持ちシート」を使用して入所者の気持ちの把握に努めている。	「私の気持ちシート」を活用し、日々の関わりや会話の中から利用者の希望や意向の把握に努めている。意思疎通が困難な方には、本人がどのように暮らしたいか、何をしたいかという視点で家族と話し合い情報を得ている。情報は職員間で共有し日々のケアに繋げている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の事前面接や日常会話の中から生活歴や馴染みの暮らし方を聞き取るよう努めている。また、前事業者からも情報を得るよう努めている。	入所前に事前面接を行い、本人や家族から生活歴や馴染みの暮らし方について丁寧に聞き取りを行っている。また、利用していたサービス事業所からも情報を得て職員間で共有し、一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境が継続できるよう支援している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの変化に留意し、記録による情報共有に努め、出来る事をその時の状況により可能な限り行ってもらえるよう援助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成前に本人、家族に意見や要望を聞き、ケアプラン会議には本人、家族に出席してもらっている。また、サービス提供実施状況について定期的なモニタリングを行っている。	日々の関わりや会話の中から利用者の意向の把握に努めると共に、介護計画作成前に本人や家族から意見や要望を聞き取り、介護計画に反映させている。また、6ヶ月毎にサービス提供実施状況についてモニタリングを行い、現状に即した介護計画となるようチームで検討が行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌に日々の様子、特記事項を記録している。また、引き継ぎノートやユニット会議において情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族対応が困難な場合には、受診の送迎や付き添いを行っている。また、本人の希望により買い物など柔軟な対応を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアによる「喫茶のあのお」に出掛けたり、地元中学生の体験学習受け入れ時に交流がある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地域の病院が入所者の半数以上の主治医であり、月2回の往診がある。また、往診前に状態報告をファックスし連携を図っている。他の医療機関を利用している入所者の状態報告も紙面で情報提供を行っている。	利用者の半数以上が、地域の病院の医師が主治医となっており診療を月2回受けている。事前に看護師がファックスで状態報告を行い連携を図っている。他の医療機関の受診についても同様に、適切な医療を受けられるよう支援している。嘱託医との連携が円滑であり、急変時等の対応にも協力的である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	平日にパート看護師が勤務し、健康管理や薬の管理・配薬を行っている。また、往診前には状態報告をファックスし、受診の際には状態報告書を家族より主治医に渡している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には速やかに情報提供を行い、退院時はカンファレンスに参加し、入所者の状態把握に努めている。また、安心して退院できるよう家族と連絡をとりあっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時には、事業所の特徴のひとつである「住み替え」の話とともに重度化した場合の対応に事業所のできる範囲の説明を行っている。	入所時、家族にも重度化した場合の対応について説明を行っている。事業所の特徴でもある「住み替え」の流れが整っており、事業所間で情報を共有することで特養入所への移行もスムーズなものとなっている。また、看取りについても職員研修が行われており、家族の希望があれば対応できる体制を整えている。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時、緊急時対応マニュアル等を整備している。また、マニュアルを基に研修会を実施、法人全体研修では普通救命講習が盛り込まれている。	急変、事故発生時に備えフローチャートを含む緊急時対応マニュアルを整備している。事故防止研修が行われ全職員に伝達講習がなされている。個別研修計画表に基づき3年に1回は、普通救命講習の更新、また実践力を身に付けるためKYT確認訓練もユニットごとに行われている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災委員会を中心に日中、夜間、地震、火災等のあらゆる場合を想定した訓練を計画・実施している。また、年2回の総合防災訓練を消防署、地元消防団、地域の方の協力により実施している。	防災について年間計画を作成し、日中・夜間・地震・火災を想定した訓練を防災委員会が中心となり実施している。施設は福祉避難所になっており、町内会の方がメンバーとなり消防協力隊が結成されている。年2回総合防災訓練を消防署、地元消防団、地域の方々の協力により実施し防災に努めている。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人権擁護、接遇研修は施設全体で研修会を行い、入所者と節度を保った関係性に心掛けている。個人情報については、文書で同意を得、責任ある取扱い、管理を行っている。	昨年の利用者アンケートからの指摘について、サービス改善会議の中で話し合い、管理者が講師となり職員への研修が実施され、すぐに改善に向けた取り組みが行われた。接遇については研修会も行われているが、日々の業務の中で不適切と思われる言動については、職員間でお互いに注意し合うことができるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中から入所者の思いや希望を聞くよう心掛けている。また、入浴時間やお茶の種類を選択してもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入所者の体調や気分に配慮しながら、意思を尊重し可能な限りそえるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	併設施設に近隣の理髪店が来て、入所者の希望時に散髪を行っている。また、衣類は自身で選択、準備してもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入所者の出来る範囲で下ごしらえ、調理、盛り付け、片付けを行ってもらっている。また、地域の方より頂いた山菜や畑で採れた野菜もメニューに取り入れている。	食事の準備や下膳、後片付け、台拭き等、利用者の力を活かし出来ることは行ってもらっている。施設内の一角には畑があり、利用者と職員が和気あいあいと野菜作りをしている様子が窺え、その食材で季節感のあるメニューが食卓に並べられる。また、地域の方からも山菜等季節の食材が届けられ、利用者の楽しみの一つになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入所者一人ひとりの既往歴や健康状態を考慮し、食べやすい大きさや量を調整している。また毎月、体重測定を行い健康管理の指標にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、口腔ケアの声掛け、見守りを行っている。就寝前には入れ歯洗浄剤を使用し衛生を保っている。また、必要時は歯科医師に往診依頼をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりにあった排泄パターンを把握し、パッドの種類や使用時間等を変えてコスト削減に努めている。また、トイレ誘導により便器での排泄を促している。	おむつのフローチャートにより一人ひとりの適正を把握し、トイレでの排泄を支援している。時間誘導はせず、水分摂取量や状態を見ながらトイレ誘導を行い、立位困難な方は2人対応で行うなど、一人ひとりにあった排泄パターンを把握し自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表による排便の有無を確認し、水分補給や体操の時間を取り入れている。また、便秘の入所者には、主治医に連絡し下剤等で対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日や時間は決めずに入所者の希望にそえるよう、週2回以上の入浴ができるよう配慮している。また、入浴剤や季節のものを取り入れている。	利用者の希望に沿い週2回以上入浴出来るよう配慮されており、毎日入られる方もおられる。季節風呂の提供や豊富な種類の入浴剤で利用者の楽しみの一つとなっている。拒否の強い利用者にはケース検討を実施し、入浴を楽しむことができるよう個々にそった支援がなされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れない等の話があった場合には、ゆっくりと話を聞いたり、温かい飲み物を勧め、気持ちよく眠れるよう努めている。また、自宅で使用していた寝具等も持ち込んでもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入所者の個人ファイルや緊急時対応マニュアルに薬事情報を入れている。また、服薬介助の際には、薬袋の名前を声に出し、服用の確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事作業、畑仕事など入所者が行えるよう声掛け、見守りを行っている。また、介護計画にできる事が継続できるよう盛り込んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	四季折々の行事を実施している。また、入所者個々の希望にそった買い物、散歩等の外出支援も適宜行っている。自宅への外泊は家族の協力を得ながら行っている。	四季折々の行事や外出は年間計画に挙げられている。通院や行きつけの美容院、近くのコンビニへの買い物が本人の希望に沿って行われている。また、事業所の買い物や広報の配布にドライブがてら同行することもある。家族の協力を得ながら、自宅への外泊や外食等に出掛けられるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を管理している入所者がいる。外出等の際には、家族にお金の準備をお願いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望の際は施設の電話を使用してもらっている。また、家族からの手紙に返事が出せるよう声掛けしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ユニットの壁や床の色を変えた設えとし、過度な装飾はせず、時季にあった飾り付けを心掛けている。	共有空間には日々の利用者と職員の笑顔の写真が飾られていたり、自慢の作品が並べられるなど生活感が感じられる。各ユニットは特色ある配置で、大きな窓からの採光も良く明るい室内であり、一定の室温が保たれている。寒さに敏感な利用者に配慮して人工の冷風を避け、天窓を開けるなど細かい点にも工夫が見られる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入所者同士のトラブルにならないよう席位置に配慮している。また、ソファでくつろげるスペースを設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた物や馴染みのある家具等を家族と相談しながら持参しえもらい、一人ひとりに即した居心地の良い空間づくりを支援している。	愛用のソファや小机の持ち込み、本人が好む家具の配置等、まるで自宅に居るかのような個性ある居室環境作りが工夫されている。壁には家族との写真や日中活動での自分の作品が飾られており、暖かみのある居心地の良い空間となっている。シーツ交換や衣替えには家族の協力もあり、つながりが途切れない工夫が見られる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置やバリアフリーで安全、安心に過ごせる構造となっている。また、入所者の目線に合わせた表示に工夫している。		